

農林廳主催の四十一年全省稻作増産競争で、高雄縣島松郷の陳發先生が第一期作に每甲乾淨谷一二、八七四石を産して優勝したが、この産量は第二期作の最高産量を超過して、全年の最高産量を示した。陳發先生の使用品種は光復後育成された高雄二二種であるが、そのためこの品種は一躍有名になり、各方面の注意を引く様になつたのである。次にこの品種を育成した高雄區農林改良場農藝課長王南漢先生に、この品種の歴史や特性を説明してもらう。

高雄二二種は高雄區農林改良場が、民國三五年の二期に高雄一八號を母本とし、臺中一五八號を父本として交配育成したのである。そして、三年二期に固定選出し、その後、品種試験を経て三九年に獎勵品種として指定され、三九年二期に原種として、二期に原種として、四十一年二期には採種田として栽培された。そして四十一年の二期に始めて一般農民に配付されたのである。だから、この品種の歴史は極めて新しい。

## ★新種優良品種★ 高雄二二號

が、産量甚だ多く、南部地區（高雄區及臺南區）特に高雄縣屏東縣に好適な品種である。次に試験成績をあげて高雄二二種の高産性を示してみよう。

第一期作産量調査表  
(普通肥料區、三年平均)  
(高雄農林改良場、三八一、四〇年の三年平均)

品 種 名	收 穫 量 (每公頃)	指 數
臺中六五號 (對照)	1,000	100
高雄二二號 (對照)	1,400	140
高雄一八號 (對照)	1,300	130
高雄二七號 (對照)	1,350	135
臺中六五號 (對照)	1,000	100
高雄二二號 (對照)	1,400	140
高雄一八號 (對照)	1,300	130
高雄二七號 (對照)	1,350	135

第二期作産量調査表  
(普通肥料區、三年平均)

品 種 名	收 穫 量 (每公頃)	指 數
臺中六五號 (對照)	1,000	100
高雄二二號 (對照)	1,250	125
高雄一八號 (對照)	1,150	115
高雄二七號 (對照)	1,200	120
臺中六五號 (對照)	1,000	100
高雄二二號 (對照)	1,250	125
高雄一八號 (對照)	1,150	115
高雄二七號 (對照)	1,200	120

### 製 繩 機

農家の副業としてワラ加工は、最も容易で安全な作業である事は衆知の所である。またワラ加工用機械のうち、製繩機が最も主要な位置をしめて居ります。そこで、今回は製繩機の中でも普通の用途に利用されて居るものについて述べて見ます。

現在の製繩機は特殊なものを除くは、大部分は包装用、食用、吹用、梱包荷造り用繩等を造るものです。

一、製繩機の種類と構造

製繩機の種類は製品、使用動力、繩取型式別に左の如く分けらるゝ事が出て来ます。

甲、製品別：…太繩用、細繩用、兩繩兼用、堅繩用、動力用、人力動力兼用。

乙、使用動力別：…人力用、動力用、動力兼用。

丙、繩取型式別：…籠取式、普通捲取式。

二、製繩機の作用

製繩機には多くの製造要素があり、各々特色があります。その代表的なものを例にとつて、話を進めて行きます(第一圖参照)。

【A】單捲裝置  
製繩機の最も大切な部分、同轉が平均しないのが缺點です。また、脚踏動作を行ひながら、動力を伝へてワラの供給を手に比し能率、成品に劣りませんが、設置の簡便な家庭副業用として簡易に利用されて居ります。

【B】合せ捲裝置  
單捲口で、左右別々に捲られたものを、一諸に捲合せ引出す作用をする裝置を「合せ捲裝置」と言ひます。構造は簡單ですから、第一圖を見れば理解出来ると思ひます。單捲口より出て来る二本の單捲繩は、同轉の同轉管で捲り合せ、管内を捲り合せ、引出しローラーで引出されます。單捲口の速度は、繩の引出速度によって異なり、早く引出すと捲りは粗く、遅くと細く、故に引出しローラーの轉速を調節する事により、自轉比の比率を調節する事に、自由かられる様に設計されて居ります。

【C】巻取裝置  
特別の場合を除く以外、繩は捲取式になつて居ります。其の駆動裝置として「ベルト式」「捲取輪式」の二種がありますが、何れも張り具合はスプリングにより常に一定に掛る様に造られて居ります。

【D】動力裝置  
人力用は足で動かすために同轉が平均しないのが缺點です。また、脚踏動作を行ひながら、動力を伝へてワラの供給を手に比し能率、成品に劣りませんが、設置の簡便な家庭副業用として簡易に利用されて居ります。

【E】毛羽切裝置  
合せ捲装置より引出されたワラは、毛羽を切り取るために、毛羽切裝置(一圖)に附加的に設けられたもので、繩を軽く、磨きさせて毛羽を立てる作用を、これにより毛羽の刈取り作用を確實にさせると共に、繩を捲き取ります。(第一圖の毛羽切裝置は軽く前後に作ります。)

【F】毛羽切裝置  
合せ捲装置より引出されたワラは、毛羽を切り取るために、毛羽切裝置(一圖)に附加的に設けられたもので、繩を軽く、磨きさせて毛羽を立てる作用を、これにより毛羽の刈取り作用を確實にさせると共に、繩を捲き取ります。(第一圖の毛羽切裝置は軽く前後に作ります。)

### 製繩機の新形(人力動力兼用)

製繩機の新形(人力動力兼用)は、従来の製繩機に比べて、動力装置を改良し、人力と動力を兼用できるように設計されています。この新形は、構造が簡単で、操作が容易で、生産性が向上しています。

図中の主要な部分には、動力伝達機構、捲取装置、毛羽切装置などが示されています。また、各部の調整方法や注意事項も詳しく説明されています。

### 製繩機の修理法

製繩機は、長く稼働するうちに、各部に磨耗や故障が生じます。修理は、作業中に目と耳をよく観察し、故障の原因を突き止めることが大切です。

修理の際は、まず動力装置を確認し、ベルトやチェーンの張りを調整します。次に、捲取装置の調整を行い、繩の巻き取りをスムーズにします。

また、毛羽切装置の調整も重要です。刃物の鋭さを確認し、必要に応じて交換してください。

修理の最終チェックとして、空運転を行い、正常に動作していることを確認してください。

### 五、簡便なる手入れ法

製繩機は、毎日手入れをしないと、故障の原因になります。簡便な手入れ法は、作業の効率を上げ、機械の寿命を延ばします。

1. 作業前後、各部の汚れを拭き取ります。

2. 動力装置の油切れを確認し、必要に応じて油を注ぎます。

3. 捲取装置の調整を確認し、適正な張りに調整します。

4. 毛羽切装置の刃物を研ぎ、鋭さを保ちます。

5. 各部のネジやボルトの緩みを確認し、締め直します。